

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	56	学校名	掛川東高校	校長名	邑田聡一
------	----	-----	-------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自律と自立の力を育成するため、高い規範意識と品性を養う。	・『自律と自立』の意味について考え、行動することができた」と答える生徒80%以上	98%	A	【全教職員・生徒課】 ・校則について考える LHR や自律と自立について考える LHR の定期開催によって振り返る時間が増え成果として表れている。3年生の開催は来年度検討する。 ・毎年入れ替わる生徒に向けて徹底して指導を続けていく必要がある。また、心得や校則の見直し先輩たちの努力によって成し遂げられていることを理解させなければいけない。
		・「気持ちのよい挨拶、制服の端正な着こなしができた」を肯定する生徒95%以上	挨拶 98% 着こなし 99%		
		・「ルールやモラルの意義について考え、主体的にルールやモラル守ることができた」と答える生徒80%以上	99%	A	【生徒課】 ・生徒たちの規範意識によって最低限の秩序が保たれている。
		・「次の予定を考え、時間を見て行動することができた」と答える生徒80%以上	99%	A	【全教職員・生徒課】 ・数字ほどできていないと感じる。職員からの言葉かけや職員全体もその意識を強く持ちたい。
		・教員の指導前にポートフォリオが作れた生徒50%以上	全体 62% 1年 68% 2年 54% 3年 65%	A	【学年・担任】 1年部 ・行事や節目に、行事シート等を作成させ、適切に声掛けすることで、自主的な作成を促すことができた。 2年部 ・声かけが十分でなかったせいもあり、ポートフォリオの作成が習慣化しているとは言えない。日頃から声かけをし定着化を図りたい。 3年部 ・2年次と比べて数値は上昇し

					ており、自発的な取り組みができるようになってきた。
イ	主体的に学ぶ習慣を確立し、社会の変化に柔軟に対応できる力を身につける。	・他者の授業見学を行い、自らの授業改善を行った教員80%以上	83%	A	【全教員・教務課】 ・校内研修と授業公開週間の周知と参加の促進ができた。 ・学習時間調査を活用し、引き続き正副担任や教科担当、部活動顧問などによる声掛けと指導を続けていく。また、教科間の課題等の共有も必要である。 ・授業改善と関連しているので、活性化された研修の質を保つ。 ・生徒の授業に取り組む姿勢が良いので、教員側も授業をしやすい。お互いの相乗効果もある。
		・「週5日以上自主学習に取り組めた」と答える生徒60%以上	76%		
		・「授業がわかり、学力が伸びている」と答える生徒75%以上	91%		
		・学習方法、学び方の改善を生徒に助言した教員80%以上	100%	A	【教務課】 ・教員間で授業見学に行きやすく、指導法の交換などがしやすい環境が結果に表れている。
		・「情報セキュリティを意識した(端末等の)活用を心掛けた」と答える生徒90%以上	98%	A	【図書情報課】 ・ほぼすべての生徒が情報セキュリティを意識した活用をおこなっている。しかしながら移動教室時等における端末の保管などに不安が残るため、この点の意識向上を図りたい。
		・ICTを活用する授業を行う教員90%以上	96%	A	【全教員・図書情報課】 ・多くの先生がiPadやプロジェクト等のICTを活用する授業を展開している。今後は使用のみではなく、内容についても紹介・助言等をおこないたい。
・総合的な探究の時間について、計画を実行していく中で、内容についてその都度検証し、必要な見直しをする。	数値による評価無し	A	【総合的な探究の時間推進委員会】 ・「新しい働き方ラボ」との協働による新規事業として、外部研究員を招いたオンライン相談会を定期開催した。従来より学外(ポートカケガワ等)で活動する意欲的な生徒はいたが、本事業を「授業時間内の校内活動」として組み込むことで、これまで接点がなかった層へも外部連携の機会を創出し、探究活動の裾野を大きく拡大させた。		

様式第3号

ウ	社会の中で働く自分の理想像を見つけ、自己の可能性に挑戦する姿勢を身につける。	・「主体的に将来を考えた」と答える生徒 100%	93%	A	【進路課】 ・様々な活動の機会を通じて将来を主体的に考える生徒が増加した。 ・学年や学級の枠組みを超えて、全職員で支援に取り組んだ成果である。個別ニーズへの継続的対応が課題である。
		・「本校の進路指導に満足している」と答える生徒 80%以上	94%		
		・進路相談、小論文、面接指導等に関わる教員 100%	96%		
		・各種検定や資格取得に挑戦した生徒 50%以上	50%	A	【教科・進路課】 ・昨年度より英語検定は外部の会場にて実施としたが、一定数の受検者があり今年度も目標の数値に到達できた。
エ	集団の中で切磋琢磨し、自他を認め合い、たくましい心身と豊かな感性を身につける。	・「学校生活に満足している」と答える生徒 90%以上	97%	A	【全教職員・生徒課】 ・心理的安全性が確保された生徒一人一人が活躍できる環境づくりの推進に向け、昨年度に引き続き生徒一人一人の心理的安全性の現状を把握するほか、本校における心理的安全性向上に資する取組例をとりまとめ、学校経営、ホームルーム経営の参考資料とした。
		・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかに積極的に参加できた」と答える生徒 80%以上	98%		
		・授業を利用して外部の専門家による講演会を年間2回以上開催し、人権意識の向上を図る。	数値による評価無し	A	【保健相談課】 ・人権講座（文化講演会）を実施し、掛川市の多文化共生推進プランを通じて人権意識を高めることができた。 【学年・担任】 1年部 ・健康、情報モラルの講演を聴講し生徒の意識が向上した。 2年部 ・議員や税理士による出前講座を通し、社会や人権に関する意識を高めることができた。 3年部 ・法務局職員の方による授業や、文化講演会を通して人権意識を高めることができた。

様式第3号

		・毎月1冊以上読書をした生徒および教員80%以上	生徒64% 教員52%	C	【図書情報課】 ・昨年度よりも悪化した。他校と比較しても数値目標は高いが、様々な工夫をおこない、目標を達成したい。 ・図書室に国語科通信で紹介した本を配架するコーナーを設置した。
		・「日常生活の中で、各自の役割を果たし、人のために行動できた」と答える生徒80%以上	97%	A	【生徒課】 ・生徒一人ひとりの意識が向上し、他者に対する思いやりや気配りが以前よりもできるようになった。
オ	学校外との連携を大切にし、安心・安全で地域から信頼される学校づくりに努める。	・「進んでボランティア活動に参加できた」と答える生徒50%	59%	A	【生徒課】 （関係部活動） ・ボランティア部の積極的な活動に加え、全校生徒に公募したボランティアに参加する生徒も一定数あった。
		・PTA行事等への参加率50%以上	PTA総会出席人数 309/613人 参加率50.4%	A	【全教職員】 （総務課） ・3年生の保護者の参加率が62%を越えたため目標を達成することができたが、1、2年生の保護者の参加率を上げることが課題である。
		・ホームページ等で情報発信を行った教職員75%以上	96%	A	【全教職員】 ・リレー形式での公式X投稿は順調に根付いており、一部の職員に負担が偏ることなく、最低でも週に1回の投稿ができています。 ・ホームページに活動風景を投稿する部活が偏っていることは課題である。
		・「掛川東高校の教育に満足している」と答える生徒及び保護者75%以上	生徒95% 保護者94%	A	【全教職員】 ・生徒、保護者だけでなく、中学生や地域からの評価や期待も高まっていると感じている。
		・保護者及び生徒のCラーニングの登録率100%、利用率90%	保護者 登録100% 利用100% 生徒 登録100% 利用96%	A	【図書情報課】 ・連絡ツールとして有効なため、今後も登録率100%、利用率90%以上を継続していく。

		・校外の個人・団体と関連する教育活動をした教員 50%以上	48%	B	【全教職員】（進路課） ・探究学習における外部相談体制が軌道に乗り、その連携に関わる教員も増えつつある。
		・「学校に信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	93%	A	【保健相談課】 ・心身の健康調査を実施し、結果を担任にフィードバックした。気になる生徒をリストアップし、SCの面談につなげた。ポストだけでなく、Cラーニングを活用し、相談室予約ができるようにした。
		・教職員の事故発生件数ゼロ ・施設に関する事故発生件数ゼロ ・監査等の指示指摘事項ゼロ	3項目全て0	A	【管理職】 ・職員からの連絡や相談など、早いタイミングで情報共有があったことが良かった。 ・職員会議後にはコンプライアンス研修を実施し、職員の意識の向上を図った。 ・学校職員衛生委員会にて、危険が潜む箇所を洗い出して対応した。 【事務室】 ・法定点検等の報告は確実に回覧し不適合等な個所を、計画的に修繕等を実施し、施設に関する事故を防止した。 ・常に内部統制を効かせ協力し合い、誤りのない事務処理ができた。
カ	教職員が働きやすい職場をつくり、教育活動の質の向上を図る。	・設定された時間内での会議 80%以上	数値による評価無し	A	【管理職・各課長】 ・職員会議は勤務時間内に終了したが、その後の学校職員衛生委員会（一部職員参加）が勤務時間外まで及ぶケースがあった点は改善の余地がある。
		・授業等の始業・終業、遅刻者ゼロを目指す。	生徒 98% 教員 96%	A	【管理職】 ・昨年度からの呼びかけのお陰もあり、授業終了時刻の延長はしないという雰囲気が醸成されている。 【教務課】 ・継続した呼びかけによって、終業時間の延長をさらに改善する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「下校時刻を守ることができた」と答える生徒 80%以上 	99%	A	<p>【生徒課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標を大幅に超えて達成できた。引き続き下校時刻を守れるような働きかけをしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回定時退勤できた教職員 70%以上 	65%	B	<p>【全職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初め、各職員の実情に合わせて定時退勤日（曜日）を設定した。 ・時間外在校時間の推移を学校職員衛生委員会資料に掲載し、全職員にも知らせた。時間外在校時間は、45時間以上と80時間以上ともに、多くの月で昨年度よりも減少している。 ・定時退勤日について、年間を通しての呼びかけはできなかったが、定時で退勤することに対する雰囲気づくりは定着している。 ・夜に職員室で仕事をしている教員に対し、数名になったところで「何時までやるか」の声掛けをすることが、仕事を切り上げるきっかけとなっている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて活動できた」と答える教員の割合 100% ・負担感、多忙感が改善されたと答える教職員 50% 	96%		<p>【全職員】（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの部活において、無理のない時間帯での活動や休養日の設定ができています。 ・一部の職員に業務が集中している部分があるため、さらなる業務の平準化が必要である。
		78%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き「職員室の心理的安全性」に関する調査を行うことが、年間を通じて「心理的安全性のある職場」を意識しての環境づくりに寄与しており、負担感や多忙感の軽減につながっていると感じる。